

今日もたべた？本ごはん

めざせ100さつ!

とうごうしょうがっこう 東郷小学校 としよかん 図書館だより 2017. 11月号



うた

11月の詩



おちばのてがみ

おちばせいいち

はる…なつ…あき…の

おもいでが

おちばになって

きれいな てがみのように

いちまい ひらり

もういちまい ひらり

(そだててくれて ありがとう)と
だいちに とどけられます

そしてふゆ

ちきゅうは

かさなりあった おちばの

おもいで つまんだてがみを よみ

あたたかいセーターのようにきこんで

ふかふかと ねむります

『おちばのてがみ』

工藤直子

あき

ふか

秋もいちだんと深まり…

11月7日は「立冬」です。こよみの上で冬が始まる日とされています。立冬の

頃に吹く冷たい強風を「木枯らし」といいます。もうすぐ天気予報で「木枯らし

1号」ということばを耳にするとおもしろいと思いますよ。

さて、先月は読書月間でしたので、いつもよりたくさんの方が図書室を利用して

くれました。今月も「ピンゴ」と「ブックリスト」は続けますので、「しおり」や

「もう1さつかりられます券」をゲットしてくださいね!

お知らせ

11月の図書室おやすみの日は、11日と13日と20日です。

☆今月のスペシャルデーの1日と10日と17日は、3さつ借りられます☆

※22日の水曜日と24日の金曜日は2さつ借りられます。



ちとせあめ 千歳飴はいつから“七五三”につかわれるようになったの?

11月15日は“七五三”です。男の子は3歳と5歳、女の子は3歳と7歳の年に成長を祝って神社やお寺をお参りします。この七五三にかかせないのが千歳飴。みなさんも食べたことがあるでしょう。この千歳飴は江戸時代の元禄の頃(今からおよそ300年ぐらい前)、浅草で飴売りが紅白の長い飴を「千年飴」「長寿糖」と売っていたのがはじまりという説があります。そして、めでたいとされる「鶴や亀」「松竹梅」などの絵柄の袋に入れられ、子どもの長寿と健康を願う縁起物となったようです。



11月 おすすめの本

11月11日は“世界平和記念日”

1914年7月28日にオーストリアがサラエボに宣戦布告し、ドイツ、オーストリア、トルコなどの同盟国側と、イギリス、フランス、ロシア帝国、アメリカ合衆国、日本などの連合国側とのあいだで、世界中を巻き込んだ第一次世界大戦が起きました。合計すると約850万人の死者をだしたといわれています。1918年11月11日にドイツと連合国側が休戦協定に調印し終わりをむかえました。それを記念して、平和を願い、11月11日が“世界平和記念日”と決められました。

★今月は“世界平和記念日”にちなんで、平和を考える本をえらんでみました★

このお話は本当に起こったことをもとに作られました。

『トビウオのぼうやはびょうきです』

いぬいとみこ 作 津田橋冬 絵 金の星社



青い青い南の海の白いサンゴ礁のそばにトビウオのおやこがなかよくくらしていました。でも、1954年3月1日、とつぜんアメリカの水素爆弾の実験があり、トビウオのおやこは悲しい運命にでています。

このお話は、世界ではじめて水爆の被害を受けた第五福 竜丸の悲劇を知った著者が、核兵器廃絶への願いをこめてかいたものです。この水爆は広島原子爆弾の1000倍もの破壊力をもちます。この本を読んだ人は『わすれないで—第五福 竜丸ものがたり—』も読んでみてください。



『へいわってどんなこと?』

はまだけいこ さく どうしんしゃ
浜田桂子 作 童心社



へいわというのは日常の本当にさり気ない瞬間に存在しているのだと改めて思います。

おいしいごはんが食べられて、夜ぐっすり眠れる。当たり前だと思っているのは幸せなことだけど、やっぱり本当は当たり前前のことじゃない。

いやだという意見が言えたり、ごめんなさいとあやまること。これだって小さな事に思えるかもしれないけど、実はこれができるいと大変なことになる。

そして何より大切なのは・・・。

『へいわってすてきだね』

あさと ゆうき し はせがわ よしふみ え
安里 有生 詩 長谷川 喜史 絵



小学校一年生の沖縄の端っこの島の男の子が書いたという詩。子どもらしいのだけど、へいわっていうものについての的確に言い表し、そして、その尊さをしみじみ感じることができます。これは、『へいわってどんなこと?』といっしょに平和学習に欠かせない絵本となりますね。小学生の読み聞かせにぴったりです。

ふつうの人は、だれも、戦争なんかしたくなかったのに・・・

『へいわ たね 平和の種をまく ポスニアの少女エミナ』

おおつかあつこ しゃしん ぶん いわさきしよてん
大塚敦子 写真・文 岩崎書店

平和の種をまく
ポスニアの少女エミナ
with 大塚敦子



誰も戦争などしたくなかったのに、気づいたら始まっていたというボスニア。戦後10年、ボスニアには戦争でばらばらになった民族のちがう人たちが、二度と戦争の起こらないことを祈って一緒に働いている畑、コミュニティ・ガーデンがあります。どうしたら戦争をふせげるのかを、少女エミナの視点から問いかける写真絵本です。

